

「しあわせになり、地上で長生きする」

2005.11.6 赤羽聖書教会主日礼拝

1. 子どもたちよ。
主にあつて両親に従いなさい。
これは正しいことだからです。
2. 「あなたの父と母を敬え。」
これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、
3. 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。
4. 父たちよ。
あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。
かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。

説教

1. 子どもたちよ。
主にあつて両親に従いなさい。
これは正しいことだからです。
「両親に従いなさい。」の
「従いなさい」と訳される言葉は、
「下で + 聞く (u`p+akou,w)」という言葉です。
そこから「聞き耳を立てる」、さらには「聞き従う」という意味で使われます。
つまり、ここでパウロが幼い子どもたちに命じていることは、
自分の親の言うことをよく聴いて、その教えに心から従うということです。

そうして、2, 3節では、その理由を説明します。

2. 「あなたの父と母を敬え。」
これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。
すなわち、
3. 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。
どうして私たちは自分の父と母に従わなければならないのでしょうか。
パウロは、その理由が、旧約聖書に「あなたの父と母を敬え」と命じられているからだと言います。
「あなたの父と母を敬え」とは、
旧約聖書出エジプト記 20章に出てくる十戒からの引用ですが、
「敬う」と訳される本来のヘブル語「カーベド dbek」のもともとの意味は
「重い、重んじる」といった意味で、そこから「名誉、栄光」という意味でも使われました。

このことから、

「あなたの父と母を敬え」とは、
「あなたの父と母を重んじよ、
あなたの父と母を軽く扱うな、
あなたの父と母を重要視せよ、
あなたの父と母に栄光を帰せよ、
あなたの父と母をあがめよ」といった意味となります。

ちなみに、

同じ「敬う」のギリシャ語「ティマオーtima,w(テモテの語源となった言葉)」は、
「尊敬する、あがめる、評価する、実際に敬意を表して経済的に援助する」という意味になります。
ですから、この場合にも、

「あなたの父と母を敬え」とは、「あなたの父と母を尊敬せよ、
あなたの父と母をあがめよ、
あなたの父と母の価値を認めよ、
あなたの父と母に実際に敬意を表して経済的に援助せよ」といった意味になります。

以上を総合すると、

使徒パウロが言っている

「あなたの父と母を敬え」とは、「あなたの父と母を重んじよ」
「あなたの父と母を尊敬せよ」
「あなたの父と母の価値を認めよ」
「あなたの父と母に実際に敬意を表して経済的に援助せよ」という意味になります。

実際に、

私たちが自分の父と母を敬うとは、
自分の父と母を 神さまの次に尊い存在として尊敬し、
親の恩に感謝して、
その言うことに聞き従い、
親を経済的に援助して養うということになるでしょう。

使徒ヨハネは言いました。

「目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。」(ヨハネ 4:20)
兄弟でさえそうであるとするならば、ましてや自分の親はなおさらのことです。

なぜなら、家庭環境や程度の差があるとはいえ、私たちが誰より世話になったのは自分の親であるはずだからです。
私たちは、親を通してこの世に生まれ、親を通して養われ、親を通して育てられ、親を通して神さまの愛を受けました。
親を通して神さまの教えの何某かを学びました。

ですから、どんなに足らなくても、どんなに欠けがあっても、私たちにとって、神さまの次の恩人は自分の親です。

私たちは、目に見える「親を敬う」ことができないのに、目に見えぬ神さまを敬うことはできません。
目に見える「親の恩に感謝する」ことができないのに、目に見えぬ神さまに感謝することはできません。

目に見える「親の言うことに従」えないのに、目に見えぬ神さまに従うことはできません。

目に見える「親に恩返し」できないのに、神さまに恩返しすることはできません。

ですから、私たちは、自分の親を、

自分の親を、神さまの次に大切な存在として認め、感謝し、尊敬しなければなりません。

神さまの言うことを聞くように、親の言うことをよくよく聞かなければなりません。

神さまに従うように、親に従わなければなりません。

神さまを愛するように、親を愛さなければなりません。

(嫌々ながら、しぶしぶ、仕方なく、不平不満をもらしつつではなく、感謝をもって喜んで)

親が老いたら、親を経済的に養わなければなりません。

「親を敬う」ことは、神さまを愛することそのものでありますが、

反対に、神さまを大切にすれば、それで親を大切にしなくても許されるというものではありません。

神さまにたくさん献金すれば、親を経済的に養わなくても許されるというものでもありません。

神さまのためにたくさん奉仕すれば、親のために奉仕しなくても許されるというものでもありません。

主イエスさまはこうおっしゃいました。

「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。

モーセは『あなたの父と母を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言っています。

それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、

わたしからあなたのために上げられる物は

コルバン(すなわち捧げ物)になりましたと言えば、

その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。

こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。

そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」 マルコ 7：9～13

当時、息子が両親に対して、

自分の財産は「コルバンである」と宣言すれば、

たとい両親が年老いて助けを必要としていても、扶養義務から逃れることが出来る、と考えられていました。

でも、これに対して、イエスさまは、

老いた両親が子どもに経済的な助けを求める場合、

「神さまに献金するので経済的に助けられない。」と言うことは

十戒の第五戒「あなたの父と母を敬え。」を破っていることだ、とおっしゃるのでした。

つまり、神さまへの献金と奉仕を口実に、自分の親への援助と奉仕を怠ってはならないのです。

神さまにひたすら献金と奉仕をしていれば、自分の親への経済的援助と奉仕を免除されるというのではないのです。

神さまに忠実に献金し、親へも誠実に支援しなければならぬ、ということになるでしょう。

親への支援が神さまへの献金を免除するものでもないし、

反対に、神さまへの献金が親への支援を免除するものでもないのです。

それでは、「あなたの父と母を敬う」には、具体的にどうすればよいでしょうか。

まず、**自分の親を、神さまの次に大切な存在として認め、感謝し、尊敬することです。**
神さまを敬うように、自分ができる限りの尊敬を自分の親にあらわしましょう。

次に、**神さまの言うことを聞くように、親の言うことをよくよく聞くことです。**

親の言うことを「またか。」とバカにしたり、鼻であしらってはなりません。

たとえ親に叱られたとしても、その親の叱責をまずはよくよく聞きましょう。

それが正当な叱責であるかどうかをきちんと判断しましょう。

そして、正当な叱責であれば、親の叱責をしっかりと受け止めて自分の罪を悔い改めましょう。

親の叱責が不当な場合もあると思います。

例えば、子どもに偶像を拝むよう、あるいは背教を強要しても子どもがそれに服従しない場合などがそれです。

しかし、そのような場合にも、あくまで相手は自分の親であることを忘れてはなりません。

カッと怒りにまかせて親を罵ったり、「バカ」呼ばわりして親を頭ごなしに非難する資格など子どもにはありません。

ですから、あくまで子どもとしての分際をわきまえつつ抵抗すべきです。

使徒パウロは、テモテに対して「年寄りを叱ってはいけません。」（テモテ 5:1）と教えました。

いずれにしても、親に向かって、腹を立てたり、親を見下したり、

親を軽蔑したり、親をさばいたり、親を支配する権利も資格も子どもにはありません。

子どもに唯一許されているのは、親を「敬う」ことだけです。

神さまが私たちに求めておられることは、親を「敬う」ことだけなのです。

「父と母を敬う」ための具体的なあり方の次は、

神さまに従うように、親に従うことです。

自分のなしうる限り、最高の服従を示しましょう。

「そのゴミを拾いなさい。」とか、「肩を叩きなさい。」と言われたら、すぐに服従しましょう。

「冗談じゃない。」とか「面倒くさい。」というのはもちろん論外です！

「ちょっと待って。」とか「明日やる。」、「いつか暇な時にする。」でもダメです。

神さまにも同じように答えるのでしょうか？

神さまのご命令よりも自分の用事や都合、気分を優先させるのでしょうか？

親に対しても同様です。

神さまに従うように、自分のなしうる限り、最高の服従を示しましょう。

その命令が神さまの命令に背くものでない限り、最高の敬意をあらわしましょう。

また、嫌々服従するのも良くありません。

感謝して、喜んで、親の言うことに聞き従うべきです。

何故なら、親以上にお世話になっている人はこの世にいないからです。

私たちは親から最高の恩恵を受けているのです。

何より親に生んでもらったことに心から感謝しましょう。

そして、親に育ててもらったことに心から感謝しましょう。

そして、感謝をもって、喜んで親に従いましょう。

「父と母を敬う」ための具体的なあり方の次は、

神さまを愛するように、親を愛することです。

つまり、親に具体的に敬意を表すのです。

親にしてもらうことばかり考えないで、親に最高の感謝と尊敬と愛情を示しましょう。

小さくてもいいから、親のために何か親孝行をしましょう！

手伝いとか、肩叩きとか、プレゼントとか、とにかく親が喜ぶ良いことをして差し上げましょう！

親のために祈りましょう！

親の祝福を祈りましょう！

「父と母を敬う」ための具体的なあり方の最後は、

親が老いたら、感謝と喜びをもって親を養うことです。

親が年をとって病気になったり弱くなったら、

生活に困らないよう経済的に援助し、寂しい思いをしないよう世話をしましょう！

使徒パウロによれば、「親の恩に報い」て自分の親の世話をすることは「神に喜ばれること」です。

「やもめの中でもほんとうのやもめを敬いなさい。

しかし、もし、やもめに子どもか孫かがいるなら、

まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。

それが神に喜ばれることです。」

テモテ 5:3,4

反対に、親の恩に報いず、親の世話をしない者は

「信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪い」と使徒パウロは言います。

「もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、

その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。」

テモテ 5:8

「やもめの中でもほんとうのやもめを敬いなさい。

しかし、もし、やもめに子どもか孫かがいるなら、

まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。

それが神に喜ばれることです。」

一般に、ユダヤ教の synagogue は、やもめを特にケアしました。それは、律法にある通りです。

「すべてのやもめ、またはみなしごを悩ませてはならない。

もしあなたが彼らをひどく悩ませ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶなら、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。

わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣をもってあなたがたを殺す。

あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる。」

出エジプト記 22:22-24

「あなたがたの神、主は、神の神、主の主、偉大で、力あり、恐ろしい神。
かたよって愛することなく、わいろを取らず、
みなしごや、やもめのためにさばきを行ない、在留異国人を愛してこれに食物と着物を与えられる。」 10:17-18

「あなたの神、主のために七週の祭りを行ない、
あなたの神、主が賜わる祝福に応じ、進んでささげるささげ物をあなたの手でささげなさい。
あなたは、あなたの息子、娘、男女の奴隷、あなたの町囲みのうちにいるレビ人、
あなたがたのうちの在留異国人、みなしご、やもめとともに、
あなたの神、主の前で、あなたの神、主が御名を住まわせるために選ぶ場所で、喜びなさい。
あなたがエジプトで奴隷であったことを覚え、これらのおきてを守り行ないなさい。」 申命記 16:10-12

「在留異国人や、みなしごの権利を侵してはならない。やもめの着物を質に取ってはならない。」 24:17

「あなたが畑で穀物の刈り入れをして、束の一つを畑に置き忘れたときは、それを取りに戻ってはならない。それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。
あなたの神、主が、あなたのすべての手のわざを祝福してくださるためである。
あなたがオリーブの実を打ち落とすときは、後になってまた枝を打ってはならない。
それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。
ぶどう畑のぶどうを収穫するときは、後になってまたそれを摘み取ってはならない。
それは、在留異国人や、みなしご、やもめのものとしなければならない。」 24:19-21

「兄弟がいっしょに住んでいて、レビラート婚
そのうちのひとりが死に、彼に子がない場合、
死んだ者の妻は、家族以外のよそ者にとついでではない。
その夫の兄弟がその女のところに、はいり、
これをめとって妻とし、夫の兄弟としての義務を果たさなければならない。
そして彼女が産む初めの男の子に、死んだ兄弟の名を継がせ、
その名がイスラエルから消し去られないようにしなければならない。
しかし、もしその人が兄弟の、やもめになった妻をめとりたくない場合は、
その兄弟のやもめになった妻は、町の門の長老たちのところに行つて言わなければならない。
『私の夫の兄弟は、
自分の兄弟のためにその名をイスラエルのうちに残そうとはせず、
夫の兄弟としての義務を私に果たそうとしません。』」 25:5-7

「『在留異国人、みなしご、やもめの権利を侵す者はのろわれる。』民はみな、アーメンと言いなさい。」 27:19

このようなやもめに対する手厚いケアを、新約の教会はさらに発展した形で継承しました。
すなわち、教会のメンバーはみな神の家族であるという教理によって、やもめに対するケアも完成したのです。
それで、老翁を「父親」のように、
老婆を自分の「母親」のように、それぞれみなして接するという五章1 - 3節の発想は、ここからでました。

初代教会がやもめを世話した事例としては、執事職が立てられるに至る経過を記した六章に見られます。

「そのころ、弟子たちがふえるにつれて、

ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。

彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。」

6:1

「そこでペテロは立って、いっしょに出かけた。

ペテロが到着すると、彼らは屋上の間に案内した。

やもめたちはみな泣きながら、彼のそばに来て、

ドルカスがいっしょにいたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。

ペテロはみなのを外に出し、ひざまずいて祈った。

そしてその遺体のほうを向いて、『タビタ。起きなさい。』と言った。

すると彼女は目をあげ、ペテロを見て起き上がった。」

使徒 9:39-40

しかし、使徒パウロが言うことは、

教会がやもめの面倒を見る以前に、

まずは、そのやもめの家族に、自分の身内であるやもめを敬うことを学ばせるのが順序だ、ということです。

4. しかし、もし、やもめに子どもか孫がいるなら、

まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。

「習慣をつけさせなさい」という言葉は、

「学ばせなさい」、「自ずから悟る(学ぶ)ようにしなさい」という意味です。

すなわち、教会は、その子どもと孫に対して、

自分の親に「敬愛を示し、親の恩に報いる」よう、教育する責任がある、ということです。

「敬愛を示し」とは、神に対しては、「あがめる、礼拝する」、「敬虔」、「信仰深さ」という意味です。

人に対しては、「自らの責任・義務を果たす」という意味になります。

このことは、**神に対して不敬虔な者は、親に対しても不敬虔である**、ということの意味するでしょう。

また、同時に、私たちは、神に対する(目に見えない)「敬虔」を、

「**自分の親に対する責任を果たす**」ことで具体的に家族に示す必要がある、ということも意味するでしょう。

このパウロのことばによれば、私たちが親に対する責任を果たさないまま、

神さまに対する「敬虔」とか「献身」とか「奉仕」とか「献金」ということはあり得ないことになります。

神さまに対する私たちの「敬虔」は、

「親に対する扶養の責任」を果たすことで具体的に示すのでなければ死んだものであるということです。

「親の恩に報いる」とは、「受け取った利益に対して返礼する」、「返済する」、「報いる」

「支払う」、「(借金を)返済する」、「(賃金を)支払う」

「責任・義務を果たす」、「(妻・夫としての)義務を果たす」という意味があります。

つまり、私たちには、親から受けた恩があるのです。

そして、その恩は受けっぱなしで、言わば借金があり、借りがあります。

それで、その親から受けた恩に対し、これに感謝し、これ「報い」て、恩を「返す」ことがこの意味なのです。

「もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、

その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。」 テモテ 5:8

4節で自分の親に敬意を表するよう命じたパウロは、

8節に至るとさらに踏み込んで、

自分の親を顧みない人がいるなら、「その人は信仰を捨てている」、「不信者よりも悪い」とまで言うのでした。

信仰を捨てている の時制は完了形で、「一度告白したはずの信仰を捨てたことを行動が明らかにした」ことを意味します。

「**信仰を捨てている**」とは、

「棄教する」とか、「背教する」とか、あるいはもっと積極的に「反キリスト的な行為」を意味する言葉です。

例えば、聖書では33回使われていますが、

「(終わりの日にイエスさまを)『知らないと言う』(拒む)」とか、

「(ペテロがイエスさまを知らない)『打ち消して』」といった用例が最も多い言葉です。

また、黙示録では、迫害に耐えかねてイエスさまを信じる信仰を「捨てる」(棄教する)場合に使われます。

「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。

そこにはサタンの王座がある。

しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、

わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたときでも、

わたしに対する信仰を捨てなかった。」(黙示2:13)

さらには、あからさまにキリストに敵対する「反キリスト」的な行為としてこの言葉が使われます。

「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。

御父と御子を否認する者、それが反キリストです。」(ヨハネ2:12)

「というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。

彼らは、このようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、

不敬虔な者であり、私たちの神の恵みを放縱に変えて、

私たちの唯一の支配者であり主であるイエス・キリストを否定する人たちです。」(ユダ1:4)

このように、使徒パウロは、自分の親を世話しない者のことを、

「棄教者」「背教者」呼ばわりし、「反キリスト的な悪魔的行為」をする者として極めて厳しく断罪します。

つまり、自分の親を顧みるという問題は、キリスト信仰の周辺ではなく根幹に関わる問題だと言うのです。

それは、要するに、その人が本当に救われているか否かを示すほどの極めて大きな問題だということなのです。

そして、さらに、パウロはもっと辛辣な表現で親不孝を断罪します。

「**不信者よりも悪い**」と言うのです。

「不信者より悪い」と言われると、それはもう「不信者をそそのかす悪霊・悪魔」以外に誰がいるでしょうか。

これは、間違いなく、最大限の侮辱、罵りの表現に他なりません。

それでは、どういう点で「不信者より悪い」のでしょうか？

それは、十戒を知っているのにそれを実行しないから、「不信者より悪い」ということです。

すなわち、不信者は十戒を知らないために十戒を守ることができないているのに対して、親を敬わないクリスチャンの場合は、

「あなたの父と母を敬え」というみことばを知っているにもかかわらずそれを実行しないから、「不信者より悪い」のです。

知らないですよりも、知っていてやらない方が罪が重いのです。(過失と犯罪の違い?)

神の愛を知っているのに、

神さまの限りない愛、

キリストの限りない愛を知っているにもかかわらずそれを実行しないので、「不信者より悪い」と言います。

すなわち、

パウロの論点は、

神とキリストの愛を知っているはずなのに、

それにもかかわらずそれを実行できないのは、

はっきり言ってそれを本当に知っているのか? 神の愛を本当に知っているのか?

すなわち、本当に救われているのか? という点を何より問うているのです。

神とキリストの愛を本当に知っているならば、

それをまず第一にあらわすべきは自分の親に対してではないのか、

それをすることができないというならば、本当に神の愛を知っているのか、

それは取りも直さず神ご自身を正しく知っているのか、という問いになるのです。

1. 子どもたちよ。

主にあって両親に従いなさい。

これは正しいことだからです。

2. 「あなたの父と母を敬え。」

これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、

3. 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。

「あなたの父と母を敬え。」

そうすればそこには神さまの約束があるとパウロは教えます。

すなわち、「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。

旧約聖書のもともとの文は

「あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなる」(出エジプト 20:12)でした。

あるいは「あなたの神、主が与えようとしておられる地で、しあわせになる」(申命記 5:16)でした。

そこで、使徒パウロは、これら二つをくっつけて、

「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」(エペソ 6:3)と言ったと思われます。

それでは、いったい、

あなたが「あなたの父と母を敬え。」という

神さまのご命令を忠実に全うしていく時、

どうして「あなたはしあわせになり、地上で長生きする」のでしょうか？

何より、そこには神さまの祝福があるからです。

神さまの祝福がなければ、たとえどんなに健康であっても、仕事に恵まれても、家族に恵まれても、幸せではありません。

しかし、私たちが神さまの教えを実行する時、そこには神さまの祝福があります。

なぜなら、神さまが祝福して下さるからです。

しかし、考えてみると、

私たちが自分の父と母を敬う時、

私たちの親は、私たちから受ける尊敬によって

「しあわせになり、地上で長生き」したいと思うのではないのでしょうか。

そして、本当に、実際に、「長生き」することでありましょう。

反対に、私たちが父と母を敬わなければ、

私たちの両親は私たちから尊敬を受けることができないために

「しあわせ」になることができず、「長生き」したいとも思わないことでしょう。

かえって家族から邪魔者扱いされて、

「早く死んでしまえ」と言われるならば、

老いた親は「早く死にたい。」と思うに違いありません。

そして、自分の親を敬わない自分自身も、

実は自分が親になった時に、

子どもたちから親としての尊敬を受けることができずに寂しく悲しく惨めな思いをすることでしょう。

私たちは、自分が他人にやったように自分もやられるものです。

そして、子どもたちは、親の背中を見て育ちます。

私たちが自分の親のことを尊敬せず、

「爺ちゃん、婆ちゃんはきたならしい。」と子どもの前で言うならば、

子どもたちは

「そうか、爺ちゃん、婆ちゃんというものはきたならしいものなのか。」という価値観しか親から学ぶことができません。

そして、自分の親(つまり「あなた」)が年をとった時には、

(爺ちゃん、婆ちゃんとなった)あなたのことを「きたならしい」と思うようになることでしょう。

また、もしも私たちが自分の親を敬わず、

「年寄り早く死んでしまえ」と思って、
自分の子どもたちの前で「年寄り早く死んでしまえ」と言うならば、
それを聞いて育つあなたの子供が大人になった時に、
今度はあなたに向かって「早く死んでしまえ」と言うことではありません。

ですから、結局は、私たちが「しあわせになり、地上で長生きする」祝福に与りたいと願うなら、
「あなたの父と母を敬」うことが何よりの秘訣なのです。

今や日本は、世界一の長寿国と呼ばれます。

しかし、その一方で 2003 年の年間自殺者数は三万四千人に達しました。

これは 1 日に換算すると、平均 88 人、16 分に 1 人が自殺している計算になります。

そのうち 60 歳以上の自殺は、実に 3 割を占めています。

老人の自殺率は、何と、世界一だそうです。

中でも、ひとり暮らしの老人と三世帯同居の老人とどちらが自殺率が高いかというと、

意外にも家族と一緒に暮らしている老人の方が自殺率が高いそうで、

三世帯同居率の最も高い県の秋田県が日本で最も自殺率の高い県だそうです。

老人自殺の原因のキーワードは「迷惑をかけない」だそうです。

つまり、老いて、病み、身体が不自由になり、痴呆になったり、寝たきりになったりしたら、若い者に迷惑をかけてしまう、迷惑をかけるくらいなら、その前にいっそのこと身をたたくて自殺するというパターンが多いということのようです。

人間が生きるということは、誰かに迷惑をかけている、言い方を変えると、誰かのお世話になっていることに他なりません。

神さまの世話になり、親の世話になり、教会の世話になり、友人・知人の世話になっているんです。

迷惑かけてもしょうがないのではないのでしょうか。

1. 子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。

2. 「あなたの父と母を敬え。」

これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、

3. 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。

ここに集うみなさんひとりひとりが、みことばの通りに「父と母を敬って」

「しあわせになり、地上で長生きする」この上なき幸いな家庭を築き、幸いな人生を生きていかれるよう祈ります。